

■過去の展示歴－2008年

04/24～06/04 「『徒然草』－兼好と古典文化－」

06/18～07/28 「はにわまつり～造形に込められた想い～」

09/26～10/24 「旅～中古・中世日記紀行文学の世界～」

10/31～11/28 「能面&狂言面～面のまなざし～」

12/06～12/24 「モンゴル展」

2008年 4/24～ 6/4 『徒然草』—兼好と古典文化—

展示概要

『徒然草』は、現在に至るまで多くの人々に親しまれてきた随筆文学ですが、今回の展示では、その成立の背景や作品としての魅力について、日本大学文理学部資料館所蔵の『徒然草』関連の和本文資料を中心に探ってみることにしました。『徒然草』の享受の様相を江戸期の写本、絵入り刊本などでたどり、とくに兼好法師と古典文化との関係に照明をあてることにより、さまざまな書物と人との出会いが生み出すドラマについても思いをめぐらせてみましょう。

会期 2008年4月24日(木)～6月4日(水)

※休館日 日曜・祝日及び4月29日～5月6日は休館

開館時間 平日10時～17時 土曜10時～13時

観覧料 無料

主催 日本大学文理学部・日本大学文理学部資料館

協力 有吉 保(日本大学名誉教授)

[▲ページトップへ](#)

2008年 6/18～ 7/28 「はにわまつり～造形に込められた想い～」

[会 期] 6月18日(水)～7月28日(月)

[開館時間] 平日10時～17時(土曜は13時まで)

[休 館] 日曜・祝日

※ただし、7月20日(日)・21日(月)は開館しております。

開館時間は10時～17時です。

展示概要

古墳とともに思い浮かべるのは「埴輪」ではないでしょうか。古墳にたて並べるために作られた埴輪には様々な形があり、それぞれ想いが込められていたと考えられています。

埴輪とはどのようなものなのか、どのような想いが込められて古墳に埴輪がたてられたのでしょうか。今回の展示ではこれらについて、日本大学で過去に調査し発見した埴輪の初公開資料をまじえつつご覧いただきたいと思っております。

本展示で公開する埴輪は本学で所蔵するものでありますが、日ごろなかなかお目にかけることのできないものばかりです。この機会にぜひ実物の埴輪をご覧ください、古代の人々の「造形に込められた想い」を感じていただければ幸いです。

主な展示品 ・千葉県山武市松尾町 蕪木古墳群 朝日ノ岡古墳出土の埴輪

・栃木県小山市 稲葉郷古墳群 足尾塚古墳出土の埴輪

・茨城県筑西市 女方古墳群 フジノコシ古墳出土の埴輪 など

～講演会のご案内～

会場 4号館3階 432教室

第1回 6月28日(土)13:30分～15時ごろ

「ハニワとの対話」

竹石健二(日本大学文理学部教授)

第2回 7月5日(土)13:30分～15時ごろ

「房総の古墳と朝日ノ岡古墳の埴輪」

福間元(芝山古墳・はにわ博物館館長)

※土曜日には大学院生によるギャラリートークを予定しております。詳しくは随時更新してお知らせします。

※ギャラリートークのご案内

6月21日(土)12時15分より

7月12日(土)12時15分より

7月19日(土)12時15分より

7月26日(土)12時15分より

大学院生による展示説明会を行います。ご自由にご参加下さい。

2008年 9/26～10/24 「旅～中古・中世日記紀行文学の世界～」

展示概要

旅のあり方やとらえ方は、時代や文化的な背景によって異なります。
日本においては、鎌倉時代以降、京都と東国との交通が盛んになり、
貴族階級・隠遁者の手になる**日記紀行文学**が出現します。
文学部資料館所蔵の和書の中から代表的な作品をとりあげ、
平安時代以降、室町時代までを中心として、
当時の旅の風景や表現世界を探り、
旅に対する考え方の変遷をたどってみましょう。

[主な展示資料]

- ・『土佐日記』慶長五年写 * 松木宗綱筆本系統
- ・『伊勢物語』鎌倉後期写 伝玲泉為相筆
- ・『西行物語』江戸後期写
- ・『更級日記』江戸初期写 * 松平文庫旧蔵本
- ・『十六夜日記』文化四年写 日野資矩筆 * 日野文庫
- ・『十六夜日記』江戸前期写 * 寶玲文庫旧蔵本
- ・『建礼門院右京の大夫集』江戸初期写 伝了哲筆
- ・『平家物語』元禄四年刊 * 献上本・絵入
- ・『左大臣義教公富士御覧記(時しらぬふみ)』江戸中期写
- ・『類従名所和歌集』元和三年刊 * 11行古活字本

会期: 9月26日(金)～10月24日(金) 開館時間: 10時～17時(土曜は13時まで) 休館日: 日曜・祝日・10月4日(創立記念日) 観覧料: 無料

▲[ページトップへ](#)

2008年10/31～11/28「能面&狂言面～面のまなざし～」

展示概要

文理学部資料館・藝術学部芸術資料館交流展

「能面&狂言面～面のまなざし～」

会期：10月31日（金）～11月28日（金）※詳細は下記を御覧ください。

[開催内容]

会期：10月31日（金）～11月28日（金）

開館時間：平日10時～17時 土曜10時～13時

※休館日：日曜・祝日・11月4日（火）

※ただし、11月1日（土）～11月3日（月・祝）の3日間[文化祭期間]は、平日どおり10時～17時まで特別開館。

入館料：無料

本展示会は、文理学部資料館と藝術学部資料館との交流展にあたります。

能・狂言は、我が国独自の舞台芸術の一種であり、文楽、歌舞伎とともに国際的に高く評価されています。

能は、鎌倉時代から室町時代に完成されたといわれ、『源氏物語』や『平家物語』などから題材をとり、幽玄美をめざした歌舞劇です。狂言は、鎌倉時代に地方の武士や農民層に普及し、庶民の日常生活の一面を表現し、滑稽さを含む対話劇として発展しました。

本展示会で、それぞれの面の発する豊かな表情やまなざしと対面し、日本の伝統的な芸術性をあじわっていただければ幸いです。

[催し物のご案内]

・特別講演会

11月15日（土）13時30分～15時（予定）

日本大学文理学部3号館3407教室

講師 児玉信 先生（日本大学藝術学部演劇学科講師）

※今回の展示会に関連する御講演をいただく予定です。

※一般の方も気軽にご参加下さい。申し込み・参加費不要。

2008年12/6～12/24 展示会『モンゴル展』のご案内

展示概要

現在、百周年記念館にて開催されている日本大学文理学部学術展示『シルクロードⅡ 草原の国から海を渡って—日本&モンゴル—地図で見る東アジアの変遷』と一環で、文理学部資料館を会場に、『モンゴル展』を開催しております。

展示会名『モンゴル展』

会期:12月6日(土)～12月24日(水) ※会期中無休

開館時間:10時～16時30分まで

※ただし、最終日24日(水)は10時～16時までです。

入場無料です。どなたでもお気軽にご来場下さい。

百周年記念館の展示会とあわせて、お楽しみ下さい。

[▲ページトップへ](#)